

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成25年度病害虫防除情報第15号

トマトの灰色かび病の発生が多くなる時期になりました。各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

灰色かび病の発生が多くなる時期です。適切なほ場管理と初期防除に努めましょう。

1 病害虫名 灰色かび病

2 作物名 トマト

3 発生状況

1月中旬の巡回調査では、茎葉での発生は発生面積率30.0%（平年19.6%）と平年に比べやや多、発病株率12.1%（平年0.9%）と平年に比べ多であった（図1、図2）。また、果実での発生は発生面積率20.0%（平年5.8%）、発病果率0.7%（平年0.1%）といずれも平年に比べ多であった（図3、図4）。

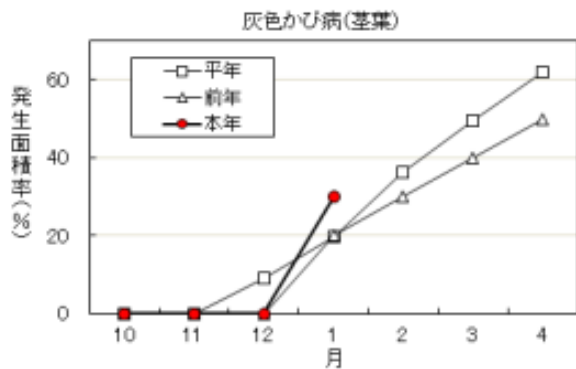


図1 茎葉での発生面積率の推移

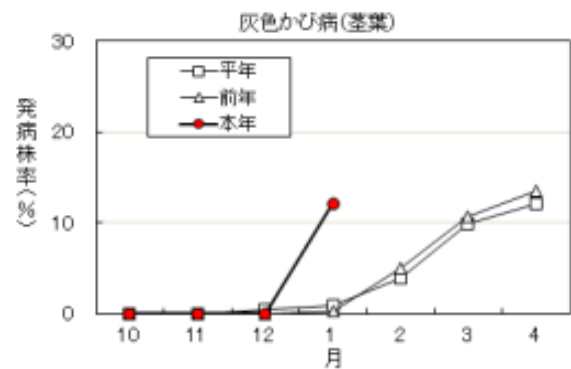


図2 発病株率の推移

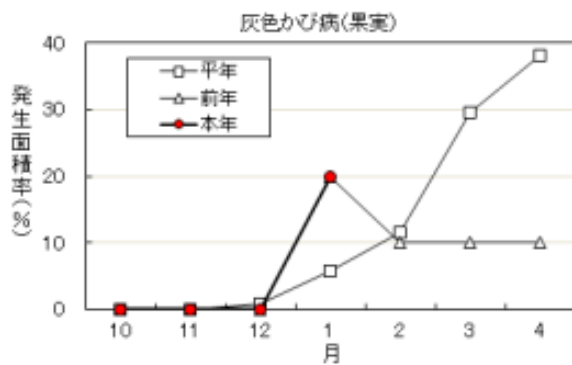


図3 果実での発生面積率の推移

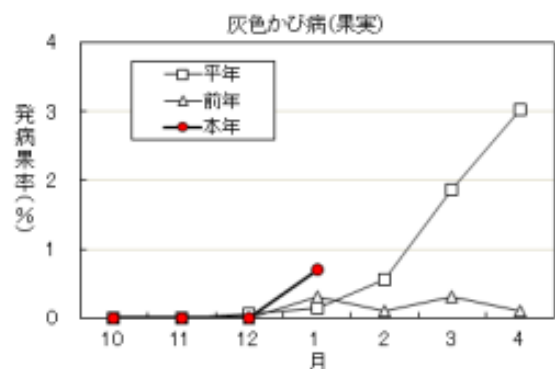


図4 発病果率の推移

4 防除上の注意

- 1) 灰色かび病菌の侵入及び発病は、最適温度が 15～23℃と比較的低温・多湿条件で多くなることから、ハウス内の温度および湿度管理に注意する。
- 2) 雨の日など最低夜温が高く、暖房機の稼働時間が短い日などは、果実等が結露しやすくなるので、送風機を作動させるなどの管理を行う。
- 3) カリウム欠乏による葉先枯れは、本病の発生源となりやすい。また、窒素過多等で軟弱徒長気味になると本病の発生が助長されることから、適切な肥培管理に努める。
- 4) 発病した果実や花卉、茎葉等は本病の発生源となり、以後の発生が助長されるため、こまめに取り除いてほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- 5) 果実では、かびが発生しなくても、果実表面に黄白色の小斑点（ゴーストスポット）が生じることがあり、商品価値を著しく落とすので注意が必要である。
- 6) 病勢が進行すると防除が困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- 7) 微生物農薬の効果は保護的な予防効果が主体であるので、発生後は速やかに化学農薬等による防除を行う。
- 8) 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 中村
TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>